

面河山岳博物館 2023 年度全国科学博物館活動等助成事業 実施内容報告書

令和 6 年 4 月 26 日

(1) 事業名

残そう地域の記憶～標本と写真で伝える里山の植物誌～

交付番号：23007

申請者：矢野真志（面河山岳博物館係長）

※〒791-1710 愛媛県上浮穴郡久万高原町若山 650 番地 1

電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136

(2) 事業の目的

トコロジストを中心とした市民参加型による里山植物の分布調査や標本作製、展示や観察会などの普及活動を実施することで、市民の自然への関心や保全意識を喚起するとともに、市民にとって利用しやすい博物館の拠点化を目指す。

(3) 事業の実施場所及び実施期間

実施場所：面河山岳博物館（実習・講座）、久万高原町役場（展示）、久万高原ふるさと旅行村（植物相調査、実習・講座）、久万高原町産業文化会館（講演会）

実施期間：令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

(4) 事業の具体的実施内容

1. 久万高原町の里山における植物相調査

久万高原ふるさと旅行村（以下、旅行村と略す）は、農山村の自然環境保全や都市生活者に向けた農業体験の場として、1977 年 7 月、愛媛県上浮穴郡久万町（現久万高原町）下畑野川にオープンした。移築古民家や釣り堀、遊歩道、ケビンやキャンプ場などの宿泊施設が整備され、これまで約 50 年間の長期にわたり、コナラ林・アカマツ林などの二次林、道沿いや古民家、耕作地周辺の定期的に草刈りが行われる草地など、久万高原町に見られる典型的な里山環境が利用および維持管理されてきた歴史をもっている（写真 1）。

本事業ではこの旅行村をフィールドに、高等植物の撮影、採集、標本作製を行ない、里山の植物相の把握を目指した。調査には面河山岳博物館がこれまでに育成した久万高原トコロジストが主体的に関わり、安全に調査を進めるためのファーストエイド講座や植物写真撮影講座に始まり、植物学の専門家による植物同定に関する勉強会や標本作製などの実習を通して、植物の記録を残す技術を高めた（写真 2, 3, 4, 5）。調査や人材育成にかかわる事業については下表にまとめる。

植物相調査の結果、約 600 種の高等植物を確認し、500 点を超す標本を収集した。その中には愛媛県レッドリストの絶滅危惧 IB 類であるセリバオウレンや絶滅危惧 II 類のカヤラン、キンラン、ギンランなど希少種が含まれていることが分かった（写真 6, 7, 8, 9）。その一方で 90 種ほどの外来種が確認されたことから（写真 10, 11）、継続的に人の手が加わることで維持される里山環境では、常に外来種の侵略性がその植物相に影響を与えていることが示唆された。

表. 久万高原トコロジストと実施した調査及び人材育成事業一覧

日 時	内 容	場 所	人数	講師
4/16 10時半～15時	第1回植物相調査 「春の植物観察と撮影法講座」	久万高原 ふるさと旅行村	10	博物館学芸員
5/7 10～12時	第1回勉強会 「野外調査のためのファーストエイド講座」	久万高原町 消防本部	10	消防署員
5/14 13～17時	第2回勉強会「植物標本作製講座」	久万高原 ふるさと旅行村	6	橋越清一 (愛媛植物研究会員)
6/18 10～12時	第2回植物相調査	久万高原 ふるさと旅行村	7	博物館学芸員
7/23 9時半～12時	第3回勉強会「植物調査法講座」	久万高原 ふるさと旅行村	7	橋越清一 (愛媛植物研究会員)
8/20 9時半～12時	第3回植物相調査	久万高原 ふるさと旅行村	4	博物館学芸員
10/29 13～16時	第1回標本作製・整理の会（植物）	面河山岳博物館	4	博物館学芸員
11/26 13～16時	第2回標本作製・整理の会（植物）	面河山岳博物館	8	博物館学芸員
12/23 10～16時	第3回標本作製・整理の会（植物）	面河山岳博物館	8	博物館学芸員

2. 調査成果を公開する普及事業

調査によって明らかになった里山の植物相について、観察データや写真、標本など調査成果を使った観察会、講演会、展示を実施した。

①里山の植物観察会「久万高原の秋の草花」（写真 12, 13）

参加者数：19名

○日 時：令和5年9月10日（日）10:00～12:00

○場 所：久万高原ふるさと旅行村

○講 師：橋越清一さん（愛媛植物研究会会員）

○参加費：100円

○内 容：旅行村内の車道や遊歩道沿いで普通に見られる秋の花を観察した。花の見分け方

の解説に終始せず、植物の様々な時期を観察することや標本を残すことの重要性についての話題を加え、記録を残す意義を伝えた。

②講演会「里山の自然のトリセツ」(写真 14)

参加者数：47名

○日時：令和5年11月30日（木）19:00～20:30

○場所：久万高原町産業文化会館研修室

○講師：橋越清一さん（愛媛植物研究会会員）

○参加費：100円

○内容：旅行村で確認された希少種や外来種の存在から、このエリアの生物多様性を評価した。また、標本を残すことの意義についても解説した。

③移動展示「久万高原ふるさと旅行村の植物」(写真 15)

旅行村で撮影した植物写真や採集した植物標本を展示し、より多くの地元の方々に身近な植物を知ってもらう機会とした。

○期間：令和6年3月1日～令和6年3月31日

○場所：久万高原町役場本庁ロビー

3. 久万高原町の里山植物を紹介する冊子の出版

旅行村で確認できた里山植物について写真を中心とした一般向け冊子「久万高原ふるさと旅行村に咲く花」を出版した（写真 16, 17）。比較的観察しやすい143種を選び、種同定がしやすいよう花の色で検索ができる構成とした。コラムでは観察や写真撮影だけではなく標本で記録を残すことの重要性についても解説し、博物館に標本を保存管理する機能があることをアピールした。

久万高原町内の小中学校及び高校、県内の博物館施設、国内の自然史博物館等に無償配布を行なった。

部数：500部

体裁：A5サイズ、50ページ、フルカラー

備考：今後の植物観察会等のイベントで配布する参考資料として利用する。また、一般向けには当館ミュージアムショップにて1部800円で販売予定。

（5）成果の総括と今後の展開

年間通して実施した植物調査や標本作製教室には、常に5～10名程度のトコロジストの協力があり、今後、博物館の行なう生物相調査や標本整理における心強い人材が育成されつつある。令和6年度以降も地域の自然をテーマとした市民参加型調査活動を企画し、更なる人材の掘り起こしを進めていきたい。その際、今回作成した植物冊子をテキストとして、旅行村での観察会や植物標本作製教室などを実施し、今回の成果を効果的に波及させたい。

写真一覧



写真 1. 久万高原ふるさと旅行村の里山林



写真 2. 勉強会(春の植物観察と撮影法講座)



写真 3. 勉強会(野外調査のためのファーストエイド講座)



写真4. 勉強会(植物標本作製講座)



写真5. 標本作製・整理の会



写真6. セリバオウレン(愛媛県レッド,絶滅危惧IB類)



写真7. カヤラン(愛媛県レッド,絶滅危惧II類)



写真8. ギンラン(愛媛県レッド,絶滅危惧II類)



写真9. キンラン(愛媛県レッド,絶滅危惧II類)



写真 10. ウスベニチチコグサ(外来種)



写真 11. ハキダメギク(外来種)



写真 12. 里山の植物観察会「久万高原の秋の草花」



写真 13. 里山の植物観察会「久万高原の秋の草花」



写真 14. 講演会「里山の自然のトリセツ」



写真 15. 移動展示「久万高原ふるさと旅行村の植物」

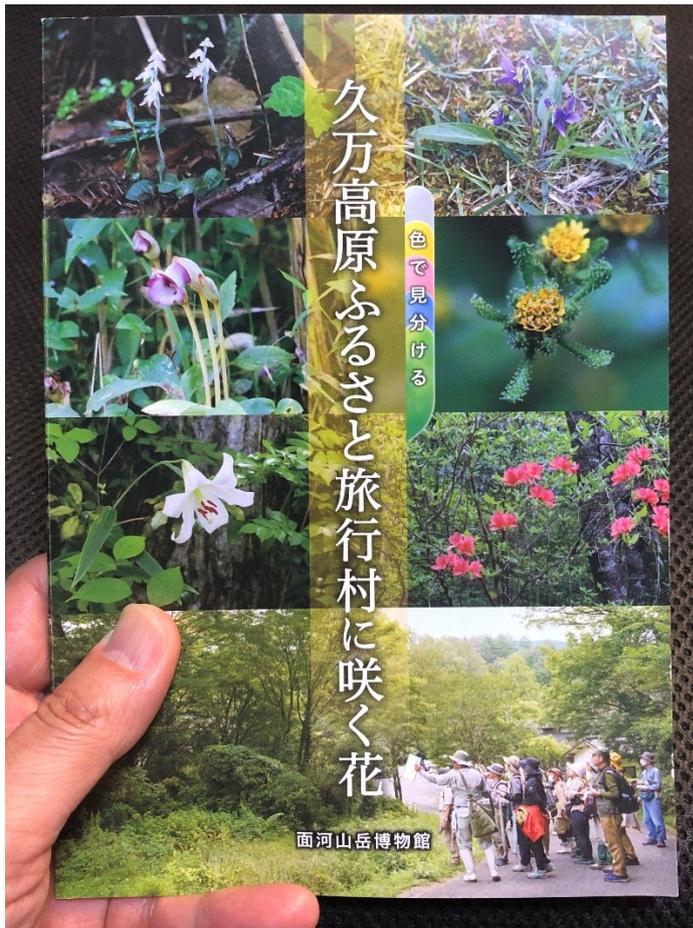


写真 16. 講演会「里山の自然のトリセツ」



写真 17. 移動展示「久万高原ふるさと旅行村の植物」